



---

# 法律専攻「演習」

## 第 2 次募集

---



# 【目次】

1. 募集について
2. 募集に関する注意事項
3. 選考方法
4. ゼミ内容

- |             |             |
|-------------|-------------|
| ➤ 甘利 航司 先生  | ➤ 鈴木 達次 先生  |
| ➤ 一木 孝之 先生  | ➤ 高内 寿夫 先生  |
| ➤ 大江 毅 先生   | ➤ 高山 奈美枝 先生 |
| ➤ 小川 亮 先生   | ➤ 中曽根 玲子 先生 |
| ➤ 小原 薫 先生   | ➤ 長又 高夫 先生  |
| ➤ 菊田 真司 先生  | ➤ 平地 秀哉 先生  |
| ➤ 川合 敏樹 先生  | ➤ 廣瀬 美佳 先生  |
| ➤ 川村 尚子 先生  | ➤ 福岡 英明 先生  |
| ➤ 古賀 絢子 先生  | ➤ 森川 隆 先生   |
| ➤ 坂本 一登 先生  | ➤ 安田 恵美 先生  |
| ➤ 捧 剛 先生    | ➤ 山下 裕樹 先生  |
| ➤ 佐古田 真紀子先生 | ➤ 山本 健太郎 先生 |
| ➤ 佐藤 秀勝 先生  | ➤ 荻野 徹 先生   |

法学部法律学科法律専攻「演習」  
第2次募集要項  
現2・3年生（令和8年度3・4年生）対象

- 濱村 仁 先生
- 山口 順平 先生

[【目次に戻る】](#)

# 1. 募集について

## 【募集スケジュール】

第 1 次 募 集
<p>終 了 し ま し た</p>

※第2次募集の実施は第1次募集の応募状況によって決定します。実施する場合、すべての教員に応募できるとは限りませんので、予めご了承ください。

第 2 次 募 集	
応 募 期 間	2026 年 1 月 5 日（月）12 時～1 月 10 日（土）12 時 50 分
選 考 期 間	2026 年 1 月 13 日（火）～1 月 19 日（月）
合 否 発 表	2026 年 1 月 21 日（水）20 時予定 / K-SMAPYⅡにて

※第3次募集の実施は第2次募集の応募状況によって決定します。実施する場合の日程等は、決定次第お知らせします。

## 【応募方法】

### K-SMAPYⅡ より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

※K-SMAPYⅡからの応募がなく面接を受けるまたは課題提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPYⅡからの応募も行ってください。応募がない場合は無効になります。

## 2. 募集に関する注意事項

- (ア) 応募期間に必ず応募してください。応募期間外の実験は認められません。
- (イ) K-SMAPY II からの実験がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ず K-SMAPY II から実験も行ってください。
- (ウ) ゼミごとに募集対象者が決められています。実験登録前に、募集要項で、自分が実験できるゼミはどれかを必ず確認してください。もしも募集対象外のゼミに実験してしまった場合には不合格となりますので、十分注意してください。
- (エ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認のうえ、実験してください。
- (オ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎは教務課では行いません。
- (カ) 演習は、月～土の1限～6限の間で開講される予定です。具体的な開講曜時は、時間割の発表時に確認してください。
- (キ) 政治科目の実験は、政治専攻の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」との合併開講です。
- (ク) 合格後に、他のゼミへの変更はできません。
- (ケ) 各教員の連絡先に関する問い合わせにはお答えできません。
- (コ) ゼミ実験に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

### 【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～金曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

[【目次に戻る】](#)

### 3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますのでご注意ください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
甘利 航司	・現在ゼミ履修中の3年生のみ	レポート	提出方法	授業時にレポートを提出してください。 レポートの提出時期に気を付けて提出するとともに、K-SMAPYⅡのアンケートに回答しておいてください。	今まで学んできて興味を持った刑法のテーマ	(書式)自由 (字数)800字以上
			締切日時	1月6日(火)14:00		
一木 孝之	・現2年生のみ	レポート	提出方法	メール送付 taka1@kokugakuin.ac.jp	民法財産法（民法総則・物権・債権総論・債権各論）科目を受講した際、「興味深いけれどもわからない」と感じた論点について （（1）「ここまではわかったこと」〈400字〉 （2）「ここからわからないこと」〈400字〉）	(書式)A4 PDF (字数)800字
			締切日時	1月10日(土)12時50分		
		面接	1月15日(木)13時00分～15時00分		若木タワー7階0706研究室	
稲垣 浩	募 集 無 し					
植村 勝慶	募 集 無 し					
大江 毅	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	ゼミ志望理由について	(書式)指定しない (字数)制限なし
			締切日時	1月10日（土）12:50		
浦町 謙太郎	募 集 無 し					

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・リポート締切		リポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
小川 亮	・第1次募集でアンケートに未回答だったが面接をした現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	募集範囲が限定されているため、課題は免除です。				
桶田 和子	募 集 無 し					
小原 薫	・現在当該ゼミ履修中の現3年生	現在当該ゼミを履修中の現3年生のみが応募することができ、リポート及び面接の課題は免除されます。				
菊田 真司	・現2年生 ・すべての現3年生	リポート	面接時持参		自己紹介とゼミの志望理由	(書式)A4 (字数)1,000字程度
		面接	1月16日(金)12：10～12：40		若木タワー7階 0712 研究室	
川合 敏樹	・現在当該ゼミ履修中の現3年生	リポート	提出方法	アンケート画面での回答	①自己紹介 ②このゼミの志望理由 ③行政活動や環境保護に関して関心のある法的問題とその理由 ④どのようなゼミにしたいか ⑤メールアドレス	(書式)自由 (字数)1,200字程度
			締切日時	1月10日(土)12：50		
川村 尚子	・現2年生 ・すべての現3年生	リポート	提出方法	メール送付 naokawamura1989@kokugakuin.ac.jp	①自己紹介 ②志望理由 ③民法（財産法）の中で興味のあるテーマ ④面接時間の希望時間（第3希望まで）	(書式)ワープロ（doc., docx.,又はpdf.）、文字の大きさは10.5ポイント (字数)1200～2000字
			締切日時	1月10日(土)12：50		
		面接	1月13日(火)13時～18時		オンラインにて	
古賀 純子	・本演習に応募するため、古賀宛にレポートを提出したものの、K-SmappyⅡでの登録を行なった現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	リポート	提出方法	メール送付 ayakoga@kokugakuin.ac.jp	これまでの法学部での法律の学習において、最も印象に残った条文・法的仕組みについて、 ①その理由、および、②そのことが、今回の本ゼミ応募にどのようにつながったのか、の2点について触れながら、論じてください。 （第1次募集とはテーマが異なりますので、ご注意ください）	(書式)word (字数)1000字
			締切日時	1月10日(土)12：50		
坂本 一登	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	リポート	提出方法	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp	志望理由 最近関心を持っている政治的事件	(書式)自由 (字数)1,000字程度
			締切日時	1月10日(土)12：50		
		面接	1月15日(木)16：15～17：00		若木タワー7階 0705 研究室	

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
棒 剛	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 sasage@kokugakuin.ac.jp	選択した英文の概要とその内容に対する自分の意見	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	1月17日(土)23：59		
		面接	1月19日(月)12：00～13：00		オンラインにて	
佐古田 真紀子	・現2年生のみ	レポート	提出方法	メール送付 sakota@kokugakuin.ac.jp	自己紹介 ゼミ志望の動機 ゼミに期待すること	(書式)Word (字数)1000字
			締切日時	1月10日(土)12：50		
		面接	個別に相談の上、決定します。		若木タワー8階 0805 研究室	
佐藤 秀勝	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	①自己紹介 ②民法ゼミを志望する理由 ③メールアドレス	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	1月10日(土)12：50		
		面接	1月10日(木)15：00～		オンラインにて	
芝崎 祐典	募 集 無 し					
鈴木 達次	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	自己紹介文 (ただし、現在ゼミ履修中の3年生は提出不要)	(書式)指定なし (字数)800字程度
			締切日時	1月10日(土)12：50		
高内 寿夫	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 takauchi@kokugakuin.ac.jp	少年法、刑法、刑事政策、刑事訴訟法または子どもに関する社会問題で関心のあるテーマ	(書式)A4版用紙横書き (字数)1000字程度
			締切日時	1月16日(金)23：59		
高山 奈美枝	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	本ゼミを希望する理由	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	1月10日(土)12：50		
羅 芝賢	募 集 無 し					
中川 孝博	募 集 無 し					

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
中曽根 玲子	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 nakasone@kokugakuin.ac.jp	2022年～2025年の間で報道された、会社法・金融商品取引法に関係するニュースで、関心のあるニュースを選択し、①当該ニュースを選んだ理由、②ニュースの概要、③現時点での自分の感想・意見（参照した資料）をレポートに纏めなさい。最後に、④ゼミで何を学修したいかを記載しなさい。	(書式)Word文書(A4用紙に40字×40行で横書き)。である調。 (字数)タイトル・学籍番号・氏名(メールアドレスを除き1,600字以上)
			締切日時	1月15日(木)12:00		
				面接	1月16日(金)13:30～15:00	
長又 高夫	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 nagamata@kokugakuin.ac.jp	このゼミに申し込んだ理由と自己紹介	(書式)ワードファイルもしくはPDF (字数)200字程度
			締切日時	1月9日(金)23:00		
			面接	締切日時	1月16日(金)12:15～12:45	若木タワー7階 0713研究室
平地 秀哉	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 hirachi@kokugakuin.ac.jp	ゼミを志望する理由と、ゼミで勉強してみたい憲法問題とその理由	(書式)A4版横書き 氏名・学籍番号・メールアドレスを明記すること (字数)1,200字以上
			締切日時	1月12日(月)23:59		
			面接	1月13日(火)13:00～		若木タワー8階 0803研究室
廣瀬 美佳	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 uh-kun@kokugakuin.ac.jp	自己紹介(関心のある問題等を中心に)&志望理由;送付するメールの件名に「2025年度廣瀬ゼミ志望」と明記すること	(書式)Word文書(拡張子は.docないし.docx)でA 4 縦・横書/余白は上下左右とも25mm/50字×48行 (字数)2,000字以内(あくまで上限ですので、短くても可)
			締切日時	1月15日(木)17:00		
			面接	1月16日(金)14:00～(以降20分刻み)		オンラインにて
藤嶋 亮	募 集 無 し					
福岡 英明	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メールで送付 hfukuoka@kokugakuin.ac.jp	興味あるテーマとその理由	(書式)自由 (字数)200字
			締切日時	1月10日(土)12:50		
本久 洋一	募 集 無 し					

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
森川 隆	・現2年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	自己紹介文	(書式)ワード 字数：800字程度
			締切日時	1月10日(土)12：50		
安田 恵美	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	<a href="mailto:OpolitiqueOpenal0@gmail.com">メール送付 OpolitiqueOpenal0@gmail.com</a>	ゼミで取り組んでみたい研究テーマと検討対象	(書式)word、A4用紙、横書き (word等テキスト作成ファイルで作成すること) (字数)1200字程度
			締切日時	1月10日(土)23：59		
		面接	1月15日(木)13:00～14:10		オンラインまたは対面 若木タワー7階0708研究室	
山下 裕樹	・現在当該ゼミ履修中の現3年生	現在当該ゼミを履修中の現3年生のみが応募することができ、レポート及び面接の課題は免除されます。				
山本 健太郎	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	<a href="mailto:kenyamamoto@kokugakuin.ac.jp">メール送付 kenyamamoto@kokugakuin.ac.jp</a>	ゼミを志望する理由	(字数) 800字
			締切日時	1月10日(土)12：50		
荻野 徹	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	<a href="mailto:ogino@biglobe.jp">メール送付 ogino@biglobe.jp</a>	クマ被害対策についての法的な観点からのコメント(1000時程度)＋自己紹介(200字程度)	(書式) A4 (字数) 1200字程度
			締切日時	1月12日(月)17：00		
		面接	1月13日(火)13：00～17：00		2502教室	
濱村 仁	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	<a href="mailto:j-hamamura@g.ecc.u-tokyo.ac.jp">メール送付 j-hamamura@g.ecc.u-tokyo.ac.jp</a>	志望理由、関心のある国際問題、ゼミに期待すること	(書式) WordないしPDF (字数) 自由
			締切日時	1月10日(土)12：50		
		面接	1月13日(火)13：30～16：30		オンラインにて	
山口 順平	【法律専攻】 現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	<a href="mailto:yamaguchijunpei.kokugakuin@gmail.com">メール送付 yamaguchijunpei.kokugakuin@gmail.com</a>	あなたが最も興味・関心をもつ現代政治の問題 (演習論文のテーマに設定したい問題)	(書式) Word (字数) 1600字
	締切日時		1月12日(月)15：00			
		【政治専攻】 現在当該ゼミ履修中の現3年生 他3年生(若干)	面接	1月15日(木)14：30～16：00		3303教室

## 4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	甘利 航司
演習テーマ	授業で扱われない刑法総論・刑法各論
演習内容	<p>法学部の刑法科目は、通常、刑法総論（4単位）と刑法各論（4単位）で構成される。しかし、時間の関係で、刑法総論においては共犯・罪数は、授業では扱うことができないことが多く、より問題なのは、刑法各論においては、「社会的法益」「国家的法益」に対する罪は、最初から扱うことが予定されていない。しかし、前者においては、例えば、罪数の議論は刑事訴訟法の議論と連動するため必須の知識であるし、後者については、私文書偽造罪やわいろ罪は、きわめて重要であり、これから社会に出ていく学生さんにとっては、是非とも学修しておくことがのぞましい。このことを更に述べると、刑法における各種犯罪類型は、成立範囲が明確であり、まっとうな人間ならば、関与しないものが多い（刑法各論ⅠⅡで扱われる犯罪はそういったものがほとんどである）反面、処罰されるのかされないのかが「皮膚感覚」で理解することができず、例えば、ビジネスパーソンが業務の遂行に際して関わってしまいがちな犯罪が多くある（上記、私文書偽造罪やわいろ罪は、そういったものに含まれる）。</p> <p>そこで、本演習は、刑法総論・刑法各論を履修中・履修済みであり、更に、もう少し勉強してみたい（勉強する必要があると考えている）という方のために、「授業で扱われない刑法総論・刑法各論」（実は、かなりの量である）というテーマを取り上げる。</p>
教科書	特になし
参考文献	特になし
備考	<p>本演習は、刑法初心者向けのものではありません。そのため、刑法科目を履修したことがない人のエントリーは控えて下さい。ただし、扱う内容は、そこまで難しいものではありませんので、刑法が得意であるとか、好きでたまらないといったことは、全くもって、求めています。求めているのは、既に真面目に法律について勉強してきたということと、本演習で真面目に勉強したいという気持ちだけです。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	一木 孝之
演習テーマ	民法（財産法）判例読解
演習内容	<p>【内容】</p> <p>前期：「これまでに下級審裁判例を読んだことがない、というゼミ生一人ひとりが、最高裁判例を読みこなせるようになるためのトレーニング」を重ねます。</p> <p>後期：毎回、民法財産法にかかわる最高裁判例を1件取り上げ、担当者のレジュメを用いた報告を受けたのち、ゼミ生全員で、そこに含まれる論点を検討します。</p> <p>【ゼミの雰囲気】</p> <p>「法学部に入ったのだから、判例が読めるようになりたい」「1年間、民法(財産法)をじっくり勉強してみたい」という人を歓迎します。</p> <p>*コンパは、年2回程度です。合宿は、ゼミ生からの希望があれば、検討します。</p> <p>* <u>*2026年度開講演習に関して、一木は3次募集を行いません。</u></p> <p>【問い合わせ・レポート提出先】</p> <p>メール宛先：<a href="mailto:taka1@kokugakuin.ac.jp">taka1@kokugakuin.ac.jp</a></p> <p>*送信時には、件名を付したうえ、署名（学籍番号・氏名）を忘れないこと。</p>
教科書	特になし
参考文献	<p>潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ〔第9版〕』（有斐閣、2023）</p> <p>窪田充見・森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ〔第9版〕』（有斐閣、2023）</p>
備考	出席は義務です。欠席の甚だしい者には、受講を認めない場合があります。受講態度不良の者（消極的姿勢に終始するなど）についても同様です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	大江 毅
演習テーマ	民事訴訟法演習
演習内容	<p>この演習は、民事訴訟法に関する理解を深めることを最終的な目標とします。</p> <p>令和8年度の演習では、民事訴訟に関する文献を素材に討論するとともに、ゼミ生各自が取り組みたいテーマについて、最終的には論文ないしレポートの形に仕上げることを目指したいと考えています。もっとも、ゼミは受講生が創りあげるものだと、担当教員は考えています。他に組み組んでみたいテーマや事柄があれば、応募のためのレポートの中で適宜お申し出ください。具体的な授業スケジュール・使用教材等については、受講生と相談して決めます。なお、令和7年度は、民事訴訟法・民事執行法に関する文献の輪読中です。</p> <p>ゼミ生の選考は、提出されたレポートを資料として行います。レポートには、ゼミ生の意向を可能な限りゼミ運営に反映させるため、少なくとも、ゼミ志望理由、ゼミで取り組みでみたいテーマないし課題、ゼミへの要望等について記述し（箇条書きでよい）、K-SmapyⅡのアンケート画面から応募してください。ただし、現ゼミ生については、レポートの提出を免除します（応募は必須です）。</p>
教科書	追って指示します。
参考文献	追って指示します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	小川 亮
演習テーマ	憲法学を楽しむ
演習内容	<p>○ このゼミの目的</p> <p>この演習の目的は、学問（憲法学や哲学など）を楽しむことです。そのためには、興味がある主題について最先端の水準の高い議論と格闘するのが一番です。そこでこのゼミでは、憲法や哲学に関する学術文献を自ら読解し、自分の考えを明晰に他者に伝えられるようになることを目指します。</p> <p>○ このゼミでやること</p> <p>前期は、憲法学か哲学に関する単著を一冊、通読します。初回までに教員が候補を示しておくので、初回に皆様の希望を聞いてどの本にするかを決めます。第二回は教員がハンドアウトを作成してきます。第三回からは、事前に割り当てられた学生がハンドアウトを作成します。</p> <p>後期には、自分が興味を持った研究主題（学問分野を問いません）に関するレポートを作成することを目指して、その準備をしていきます（主題の選定、リーディング・リストの作成、関連論文の読解、中間報告など）。主題の選定には教員が相談に乗ります。</p> <p>前期・後期を通じて、一週間から二週間に一回、20～30頁ほどの日本語の学術文献を読む程度の予習を可能な限りするようにお願いします。できるだけ頑張ると、文章を読んで理解してまとめる力がどんどん上がっていきます。一緒に頑張りましょう！</p>
教科書	指定しません
参考文献	<p>前期に購読する文献は第一回で決めます。これまでの例：野崎綾子『正義・家族・法の構造転換』（2024年度）、江原由美子『ジェンダー秩序 新装版』（2025年度）。岡田順太ほか編『障害のある人が出会う憲法問題』、高橋正明『平等原則論の再構成と展開』、野崎亜紀子『&lt;つながり&gt;のリベラリズム』、久保田さゆり『動物のもつ倫理的な重み』、佐藤邦政ほか編著『認識的不正義ハンドブック』などを考えています。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として演習には毎回参加する必要があります。遅刻や欠席しなければならない理由がある場合は、事前に相談・連絡してください。</li> <li>・授業内で用いる文献については教員が配布します。</li> <li>・slackで情報共有を行うので、そのための環境が必要です。</li> </ul>

[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本を取り巻く政治と思想について考える
演習内容	<p>今、我々を取り巻く政治、社会の状況は大きな転機を迎えている。安全保障、日米関係、外国人問題も、大きな論点となっている。その中で、我々は何を選択するのか。戦後81年を迎える2026年は、今の日本を取り巻く政治、社会の問題について、その背景の思想を含めて議論をしていく。</p> <p>前期は、岩波新書を中心に講読し、討論を行う。後期は、それぞれが関心のあるテーマについて調査し、中間発表を行い、最終的にレポートにまとめることを目指す。</p> <p>レポート作成のために、合宿を行うこともあるので、課外の活動にも関心のある学生の参加を求める。</p>
教科書	指定しない
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	荏田 真司
演習テーマ	AI と民主主義
演習内容	<p>2022年11月のChatGPTの公開以後、生成AIは急速な発展を遂げつつあり、既に情報収集の重要な手段になると同時に、さまざまな判断の補助として重要なパートナーになっています。</p> <p>それでは、このAI時代における政治とはどのようなものになるのでしょうか？日本でもAIを政治の場で有効活用する「デジタル民主主義」の動きが始まっていますが。テクノロジーがもたらす未来を悲観的にとらえるか、民主主義をバージョンアップするための重要な手段としてとらえるかで、その評価は大きく分かれています。</p> <p>この演習では、具体的な「デジタル民主主義」の方法とその背景にある基本的な概念を再検討し、AI時代の民主主義について、広い視野から考えてみたいと思います。</p> <p>演習は、指定されたテキストを読み、担当者が報告した後で、全員で討論する形で行われます。また、演習参加者には、自分で決めたテーマについての論文を執筆してもらい、論文報告会で報告してもらいます。</p> <p>選考にあたっては、議論に積極的に参加する意欲のある人を優先します。</p>
教科書	<p>李 舜志、『テクノ専制とコモンへの道 民主主義の未来をひらく多元技術 PLURALITY とは?』、集英社新書、2025年</p> <p>橘 玲、『テクノ・リバタリアン 世界を変える唯一の思想』、文春新書、2024年、など</p>
参考文献	<p>オードリー・タン、E・グレン・ワイル、『PLURALITY 対立を創造に変える、協働テクノロジーと民主主義の未来』、2025年</p> <p>ヤニス・バルファキス、『テクノ封建制 デジタル空間の領主たちが私たち農奴を支配する とんでもなく醜くて、不公平な経済の話。』、集英社、2025年、など</p>
備考	<p>・面接日に都合が悪い等の連絡や、演習内容についての質問は、karita@kokugakuin.ac.jpまでメールで送ってください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	川合 敏樹
演習テーマ	行政法と環境法の基本的・発展的問題の研究
演習内容	<p>グループでの報告とこれをもとにした議論や模擬裁判などを通して、行政法と環境法（国内環境法）の制度・判例・理論・実務などをみんなで考えていきます。前期前半は、ゼミ形式での学習に慣れるとともに、行政法を復習しつつ環境法の基本も理解できることを目標とします。前期後半以降は、ゼミ生の希望に即していくつかのテーマを取り上げ、ゼミ生のより主体的な参加のもと、専門的・各論的な考察を進めていき、後期は模擬裁判を行なう予定です。今年度扱っているのは、学校や公共施設での事故等が問題となった訴訟、まちづくりのあり方が問題となった訴訟、漁業資源管理やメガソーラー建設が問題となった訴訟などです。</p> <p>ゼミで学び、ゼミをつくっていくのは、他ならぬゼミ生自身です。ただ教室に来て座っているだけではなく、自身で調べたり考えたりしたことをふまえて意見や疑問を述べたり、全員で議論したり、授業内外に関心を持ったことに積極的に取り組んだりするなど、ゼミでの学習やゼミの運営に主体的に参加したいという方の応募を待っています。ゼミ生による発案・運営のもと、ゼミ合宿や懇親目的の企画も適宜行ないたいと考えています。</p>
教科書	教科書類は指定せず、教材を適宜配布・紹介します
参考文献	開講後に指示・紹介します。
備考	ゼミでは、原則として遅刻・欠席を不可とします。遅刻・欠席せざるを得ない場合は、理由を付して事前に相談・連絡すること。

[【目次に戻る】](#)

教員名	川村 尚子
演習テーマ	民法判例演習
演習内容	<p>この演習では、民法のうち、主として財産法に関する基本問題を取り上げ、具体的な事例を検討対象としながら、民法の基本的な制度、その趣旨、機能について学修していきます。基本的な知識を習得することはもちろんですが、なにが問題となっているのかを発見し、資料等を調査・収集し検討をおこなったうえで、その結果を説明して議論する力を養うことを目標とします。</p> <p>具体的には、最高裁の重要判例について担当班にレジュメを用いて報告してもらい、それに基づいて全体で討論をします。したがって、担当班以外の受講生にも予習をして積極的に発言することが求められます。どの判例をとりあげるかについては、最初の授業のときにみなさんの意見も聞きながら決めたいと思います。また、各学期末に各自が選択したテーマについてレポートを提出してもらいます。</p> <p>もっとも、いきなり報告に入るのは難しいので、最初の1回～3回目までの授業では、全体で判例を読みながら、判例の読み方や文献の収集の仕方等についてレクチャーする予定です。</p> <p>また、受講者数が少ない場合には、判例演習ではなく、テーマを絞って当該テーマについて関連論文や関連判例などを調べて報告してもらうなどすることもあります。ある程度、受講生の希望を聞きながら進めたいと考えています。</p> <p>評価については、レポート、出席、報告、討論・質疑などを総合的に評価します。</p> <p>コンパや合宿は、受講生の希望に応じて、受講生に企画してもらい、実施しています。今年度は、箱根にいきました。</p>
教科書	授業時に適宜指示します。
参考文献	授業時に適宜指示します。
備考	<p>この授業は、演習であるため、原則として欠席は認めません。</p> <p>やむを得ない事情がある場合にのみ欠席を認めますが、その際には、必ず事前に川村まで直接連絡するようにお願いしています。</p> <p>また、少なくとも民法・総則、債権各論 A/B、物権法 A/B を履修していることが望ましいです。</p> <p>※注意事項：募集時の面接は、Zoomで行います。メールでレポートを提出する際に、件名には「2025 年度ゼミの応募」と記載し、本文には、氏名・学籍番号、〈面接日時〉の①と②の範囲で、希望する日時を第三希望まで記載するようにしてください。面接日時と Zoom の URL は、追ってこちらからメールにて連絡します。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	古賀 絢子
演習テーマ	家族と家族法の変化を追い、考える
演習内容	<p>本演習では、家族法に関する裁判例、法改正、および、統計資料を素材とし、日本の家族と家族法がなぜ、どのように変わってきたかを追うことで、今後、家族法はどうあるべきかを考え、求めて行きます。</p> <p>家族法つまり民法の親族・相続編は、戦後直後の大改正以降、2000年代頃までは目立った改正が少なく、安定した法領域でした。もっとも、その間も実際の家族の在り方は変化し、新たな課題や紛争が生じていました。それらについては、裁判による解決が図られてきましたが、2010年代に入り、裁判例の蓄積を踏まえつつ、加速する家族の実態の変化に対応するための大きな法改正が相次いでいます。今後も、離婚後の共同親権制導入を含む親権法改正が2026年に施行予定であるとともに、夫婦同氏制の見直しや同性婚の導入へ向けた議論も活発化するなど、変化のペースは緩まる気配を見せません。</p> <p>そうした中で、家族法は今後どうあるべきかが大きな関心を呼んでいます。その検討のためには、裁判例や法改正などの法制度の変遷が実際の家族に及ぼしてきた影響も射程に入れ、制度と現実の相互作用という視点から検討することが重要となります。そこで、家族の実情を知る手がかりとして、各種統計資料にも適宜触れて行きます。</p> <p>本演習は2025年度から始まったばかりの新しい演習です。具体的な運営方法については、第2期生となる皆さんの意見も聴きながら、一緒に考え、授業を作り上げていきたいと思っています。</p>
教科書	大村敦志他編『民法判例百選Ⅲ 親族・相続』第3版（有斐閣、2023年）等 （他は開講時にお伝えいたします。）
参考文献	開講時にお伝えします。
備考	本演習を履修される場合、「民法（親族・相続）」を併行履修してください。 （現3年生で、既に履修済みの場合は不要です）

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	戦前の政党と議会政治
演習内容	<p>2024年は、選挙の年であった。1月の台湾総統選挙をはじめとして、韓国、インド、英国、フランス、イランと続き、11月には米国大統領選挙がある。選挙は、各国の政治を大きく変貌させ、新たな政治の動きが始まっている。日本においても、自民党および立憲民主党の新リーダーを選ぶ選挙が続き、新たな政党政治および議会政治が模索されている。こうした状況に鑑み、来年度は、戦前日本の政党政治および議会政治の歴史をふり返し、日本政治の将来を考察することを狙いとする。現代においても、2009年政権交代が実現し、民主党政権が誕生した時、日本における二大政党制の可能性が、しきりに論じられた。それから、15年、二大政党制確立の可能性は遠のいたように見える。それでは、戦前の日本では、約8年間とはいえ、なぜ政党内閣の時代が誕生し、なぜそれが崩壊したのか、その経緯を考察することは、今後の日本の政治を考える示唆を与えてくれるかもしれない。まず昭和戦前期の政党や議会史を概観するところからはじめ、21世紀の政治を念頭におきながら、政党政治の可能性や議会政治とは何かを考えていきたい。</p> <p>なお、演習は、前期は文献講読、後期は論文作成をおこなう。前期講読における報告と後期の小論文の完成は、単位取得のためには必須である。演習なので、全回出席が原則であり、無断欠席の場合は、除名することがあるので、留意すること。</p>
教科書	勝田龍夫：重臣たちの昭和史上下巻 文春文庫
参考文献	栗屋憲太郎：昭和の政党 岩波現代文庫 筒井清忠：昭和戦前期の政党政治 ちくま新書 小山俊樹：五・一五事件 中公新書 古川隆久：戦時議会 吉川弘文館
備考	面接時間が不都合な場合は、メール（kazutos@kokugakuin.ac.jp）にて相談すること。対応可能です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	捧 剛
演習テーマ	<p>ちょっと専門的な英文を読みたい。 ついでに、それをもとに意見を述べてみたい。</p>
演習内容	<p>この演習は、たとえ現在はほとんど英文が読めなくても、種々の目的のために（もちろん、単なる好奇心でも OK です）、英語で書かれたちょっと専門的な文章を読みたい、そして、願わくは、現在よりは、そうした英文をよりよく読めるようになりたいという人向けのものとなっています。</p> <p>そのために、毎回、事前に配布された英文（おそらく、その多くは新聞記事になると思います）の日本語訳を発表してもらいます（英文の長さや難易度は、参加者のスキルにあわせて調整するつもりです）。そして、その内容について各人が思ったこと、感じたことを日本語で述べてもらおうと思っています。</p> <p>面接（5 ～ 10 分程度）においては、主として、なぜ、この演習を志望するのかをお聞きすることになりますが、それに先だって、自分の「やる気」を示す材料として、以下の URL のいずれかにアクセスして、そこにある英文記事のどれか1つに目を通し、その記事の概要と記事が扱っている問題について自分はどのように考えるかを日本語で書いたものをメールでお送りください（形式、字数はご自由に。ただし、どの記事を読んだのかがわかるように、記事の英文タイトルを必ず記載してください）。なお、現在この演習を履修している3年生については、選考を免除します。</p> <p>(1) <a href="https://www.theguardian.com/law">https://www.theguardian.com/law</a>  (2) <a href="https://www.independent.co.uk/voices/">https://www.independent.co.uk/voices/</a>  (3) <a href="https://www.bbc.co.uk/news/uk">https://www.bbc.co.uk/news/uk</a></p>
教科書	なし
参考文献	なし（それほど難しくない[と思われる]）英文資料（主として、新聞記事）を、毎回配布します。
備考	なし

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐古田 真紀子
演習テーマ	民事手続法の事案について議論する
演習内容	<p>民事手続法の近時の重要判例を取り上げて、その論点を深く掘り下げます。毎回のゼミでは、報告担当チームが報告を行った後、ゼミ生全員がざくばらんに質問や意見を出し合います。ゼミ生同士の話し合いを通して理解を深め、徐々に手続法的な考え方を修得していきます。</p> <p>一定の要件を満たす場合は、ゼミ生のみなさんの意向により、例年10月に開催される民事訴訟法合同ゼミナールに参加することができます。合同ゼミには、北は北海道、南は沖縄まで全国の大学から約17ゼミ300余名の民訴ゼミ生が集います。それまでの期間、ゼミ生は協力し合って準備を重ね、合同ゼミ当日は、他大学のゼミと楽しく充実した討論を行います。前日の開会式では、各ゼミのゼミ長によるユーモアたっぷりのゼミ紹介があり、また、討論終了後の懇親会では、他大学の学生や教員と交流を深めて盛り上がります。なお、討論に勝敗はありません。異なる観点から意見を交換することで、問題点をより深く掘り下げて理解することを目的とします。この活動を通して、論理的思考能力・叙述能力を養成するのはもちろんのこと、各人が主体的・計画的に行動しつつ、チームで協働して目的を達成した経験は、就職活動で、また社会に出てからも、大いに役立つことでしょう。</p>
教科書	教科書は使用しません。使用する教材は、授業中にその都度、指示します。
参考文献	<p>伊藤真 『民事訴訟法（第8版）』（有斐閣）</p> <p>高橋宏志 『重点講義民事訴訟法上下（第2版補訂版）』（有斐閣）</p> <p>高橋宏志他編 『民事訴訟法判例百選（第6版）』（有斐閣）</p>
備考	<p>民事訴訟法IAB、民法総則、債権各論、債権総論、物権の講義を履修済みであるか、同時に履修することが必要です。</p> <p>質問がある方は、sakota@kokugakuin.ac.jp までお気軽にご連絡ください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 秀勝
演習テーマ	判例研究または事例問題の検討
演習内容	<p>1. 演習の目的</p> <p>・この演習の目的は、最高裁判決または事例問題の検討を通じて民法の理解を深めることにあります。皆さんはこれまで、講義等を通じて民法の基本的な知識を身につけてきたと思いますが、それらの知識は具体的な紛争を解決することができてはじめて「生きた知識」になると言えます。そこでこの演習では、判決または事例問題を検討し、他の人とのディスカッションを通じて「生きた知識」を身につけることを目指します。</p> <p>（以上は、現時点で担当者が考えている内容です。演習で具体的に何をするかは、開講時に履修者の希望等も考慮しながら相談して決めます。）</p> <p>2. 演習の内容・進め方</p> <p>・進め方に関しては開講時に相談して決めます。</p> <p>・学生が主体となったゼミ運営を目指します。</p>
教科書	開講時に指示します。
参考文献	開講時に指示します。
備考	<p>1. 次の場合には除籍等の対処をします。</p> <p>①無断で欠席した場合、②欠席につき連絡をしたが、その理由が欠席を正当化するものとは言えない場合、③正当な事由による欠席を6回以上した場合、④遅刻・早退をした場合（公共交通機関の遅延を除く）</p> <p>2. 連絡先を知る必要がありますので、レポート提出の際にメールアドレスを正確に記載してください。</p> <p>3. 面接に関して、予定されている日時に不都合がある場合、相談に応じますので連絡をください。なお、やむを得ない事情がある場合にはオンラインでの面接にも対応します。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	鈴木 達次
演習テーマ	会社法判例研究
演習内容	<p>【内容】</p> <p>会社法の基礎判例を取り上げて研究を行います。</p> <p>皆さんの多くは、現在会社法の講義を受けているか、あるいは過去に受けたことと思います。しかし、民法や刑法と異なり、会社法は抽象度が高く、講義だけでは、それがどのように適用されるか、イメージすることは難しかったでしょう。そのためには、具体的な事案（判例）に即して適用関係を学ぶ必要があります。このゼミが会社法の基礎判例を取り上げるのはそのような理由からです。</p> <p>会社法は会社組織のあり方や取引相手との関係にまつわる法律問題を解決するルールです。大学時代にしっかり学んでおきましょう。</p> <p>【運営】</p> <p>司会者の進行にしたがって報告者が基調報告を行い、それに基づいて受講生全員が討論します。報告者はレジュメを用意し、それ以外の方もちゃんと予習をしてくる必要があります。</p> <p>最初のうちは難解に思えるでしょうが、毎週予習してゼミに臨むことにより、少しずつ問題点が分かってきます。議論も活発にできるようになり、徐々に会社法が面白く感じられるようになるでしょう。やがては「中毒」といいほどゼミにのめりこむことになります。</p> <p>【成績評価】</p> <p>司会、報告および討論の内容により総合的に評価します。なお、正当な理由なく遅刻・欠席した場合には単位は認定されません。</p>
教科書	<p>第1回講義の際説明します。</p> <p>なお、六法は毎回持参してください。</p>
参考文献	第1回講義の際説明します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	高内 寿夫
演習テーマ	少年法で自由に議論しよう ーグループディスカッション・プレゼンテーション・ディベートによってー
演習内容	<p>本ゼミナールの目的は、少年法に関するテーマで、ゼミ生に、社会に出てから役に立つプレゼンテーションやディスカッションの力を身に付けてもらうことです。</p> <p>少年法は、講義自体が3年次に配当されていることから、前期は、教員がテーマを設定した上で、ゼミ生には、グループディスカッション、ディベートに習熟してもらおうと思います。前期に取り上げるテーマは、非行少年には刑罰を科すべきか保護処分を課すべきか、非行少年は実名で報道すべきか、非行少年の社会復帰支援はどうあるべきかなどです。</p> <p>後期は、ゼミ生各自に自分のテーマを設定してもらい、プレゼンテーションとグループディスカッションとを交互に実施していきます。プレゼンテーションでは、ゼミ生それぞれに、そのテーマを取り上げる理由と解決の方向性を示してもらいます。また、ゼミ生には、プレゼンテーションを行ったテーマで、後期中にレポートをまとめてもらう予定です。</p> <p>なお、ゼミ生の希望に応じて、夏休み・後期などに、少年院、少年鑑別所、児童自立支援施設、児童相談所、保護観察所などの施設見学も計画します。</p>
教科書	澤登俊雄『少年法入門 [第6版]』（有斐閣、2015年）
参考文献	テーマが決まった段階で紹介します。
備考	<p>【選考方法：レポート】</p> <p>■題目：少年法、刑法、刑事政策、刑事訴訟法または子どもに関する社会問題で関心のあるテーマについて</p> <p>■書式：A4版用紙横書き（Word文書；字数1000字程度）</p> <p>■締切日時：1月16日（金）23時59分</p> <p>■提出：メール送付（<a href="mailto:takauchi@kokugakuin.ac.jp">takauchi@kokugakuin.ac.jp</a>）</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	高山 奈美枝
演習テーマ	民法演習
演習内容	<p>この民法演習では民法の基本を習得することを目的とします。民法の基礎についてはある程度すでに学習されていると思いますが、より根本的に考察できるよう、その方法論から学んでいきます。すなわち条文を中心として民法の規定する諸制度、および判例・学説を整理し、より明晰な形で問題を提起・検討を行い、結論を導くことを試みます。またさらなる調査・研究を行っていきけるような力をつけるため、資料収集や発表の方法についても学んでいきます。民法の財産法ならびに身分法のすべてを対象の中心としながら、それぞれの関心に応じた課題を見つけていただいて結構です。</p> <p>民法は〈私〉の生きるためのルール集合です。それは大変豊かな内容と大きな歴史を有しています。そのようなことも学ぶ機会にしていきたいと思います。</p>
教科書	適宜指示します。
参考文献	適宜指示します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	中曽根 玲子
演習テーマ	会社法・金融商品取引法を巡る事例を考える
演習内容	<p>社会を騒がせた有名な事件（ニュース）であっても、法的な論点が何であったのかは意外と知られていないことが多い。本演習の最終目標は、会社法（金融商品取引法を含む）に関連するニュースを取り上げ、問題の背景や法的問題点を調べ、法規制の意義を考えることである。</p> <p>ゼミでは、能動的な学修やコミュニケーション能力を高めることを重視し、3・4年混在のグループワークを主体に進める。前期では、会社法・金融商品取引法の基礎知識を学習し、後期には、個別発表と12月には学内の他の商法ゼミとの合同事例問題検討会を行う。また東京証券取引所や日本銀行の見学、ゼミ合宿を行う（予定）。</p> <p>広く経済社会の出来事に対して興味や問題意識を持ち、ゼミ活動に積極的に取り組む意欲のある学生の参加を期待したい。なお、本ゼミは2026年度限りのゼミとなる。</p>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会社法・金融商品取引法に関するテキストについては、ゼミ初日のガイダンスで説明する</li> <li>●指定六法（最新版が望ましい）</li> </ul>
参考文献	その他、必要な参考文献は適宜指示、または演習内で配付する
備考	2年次に「会社法の基礎」を履修していることが望ましい。あるいは、3年次にゼミと並行して履修することが必要である。

[【目次に戻る】](#)

教員名	長又 高夫
演習テーマ	法制史ゼミ「御成敗式目」を読む
演習内容	<p>本ゼミでは、法制史関係の史料（法典や法書、家訓等）などを、丁寧に読み解きながら、前近代社会における法律生活の歴史を探っていこうと思っています。</p> <p>昨年は、結城氏の「結城氏新法度」をテキストとして、戦国時代の分国法がどのような法典であったのか歴史的に考察してきました。その内容を正確に理解し、そのうえで、戦国期の法文化がどのようなものであったのか、皆で考えてみました。</p> <p>今年度は、武家法の基本法である「御成敗式目」をテキストにしながら、一条ずつ解釈し、他の鎌倉幕府法とも比較し、さらには、それが、室町幕府法以降の法にどのような影響を与えたのか、ということについても考えてゆきたいと思います。</p> <p>〈ゼミの進め方〉</p> <p>法学部の学生さんは、歴史的な法制史料の読み方になれていないと思いますので、教員が</p> <p>法典の解釈や註釈を行った上で、ゼミ生の皆さん達には、自分の関心にもとづき、質疑してもらおうというやりかたをしたいと思います。漢文が不慣れな人でも、歴史に興味があるという人には、積極的に参加してもらいたいです。</p> <p>楽しく参加できるゼミを目指しています。</p>
教科書	『中世政治社会思想 上』（岩波日本思想大系）を利用します。ただし担当箇所をコピーするだけでも大丈夫です。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植木直一郎『御成敗式目研究』（復刻版 名著刊行会、1976年）</li> <li>・神野潔等編『御成敗式目ハンドブック』（吉川弘文館、2024年）</li> <li>・長又高夫『御成敗式目編纂の基礎的研究』（汲古書院、2017年）</li> <li>・長又高夫「御成敗式目」の評価をめぐる（『國學院法学』62巻1号、2024年）</li> </ul>
備考	参考文献については適宜指示いたします。

[【目次に戻る】](#)

教員名	平地 秀哉
演習テーマ	憲法の現代的問題
演習内容	<p>このゼミで勉強する内容や勉強の方法などは、例年受講者同士の話し合いによって自由に決めてもらうことにしています。参考までに2025年度は、実際の裁判例に含まれた人権にかかわる論点について参加者同士の意見交換を通じて勉強してきました。</p> <p>また、ゼミの進め方は次のとおりでした。まず、毎回の報告担当者(2～3人組)と、報告する事例、報告日を決定します。そのうえで、報告者以外には事前に報告予定の事例と解説に目を通しておいてもらいます。報告者には、レジュメを作成し、授業時に一通りの報告・検討をしてもらいます。その後、全員で報告についての質疑応答をします。</p> <p>また、例年参加者の希望により、年に数回の懇親会や年1回の合宿を行っています。来年度も開催する可能性は高いので、応募に際して考慮に入れてください。</p> <p>成績は、平常点評価です。毎回出席を前提としたうえで、授業時の報告の出来、発言の頻度・内容などを考慮して評価します。ゼミ選考時以外、成績評価のためにレポートや論文等の提出を義務付けることはしません。したがって、本ゼミが求めるのは、憲法に関する高度な知識や学力よりも、ものを考え、それを積極的に言葉で表現する意欲、そして仲間との協調性ということになります。</p>
教科書	特になし（適宜配布します）
参考文献	特になし（適宜配布します）
備考	<p>選考面接を欠席せざるを得ない場合、選考レポートに欠席理由と連絡先を記入し提出してください。こちらから連絡し、別途面接日時を調整します。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	廣瀬 美佳
演習テーマ	私たちを取り巻く社会と医療と法(仮)
演習内容	<p>本演習では、基本的には、初回の授業で履修者と相談の上、その年度のテーマを決めることになります(2025年度は、一応、担当教員の方で、本人のライフワークであり医事法の授業でも講義しているところをテーマに掲げたところ、これに興味をもった学生が応募・履修することとなり、前期～後期を通じて、過剰医療・再生医療・性同一性障害・トリアージ・オーバードーズ・美容医療&amp;広告・ヒト組織&amp;胚の法的地位・心神喪失者等医療観察法・ALS 殺人事件等、履修者がそれぞれの関心のあるテーマにつき、調べて報告をするという形で一途中でテーマを軌道修正等することもあり得ますが一進めています)。</p> <p>ですので、2026年度についても、上記のように、医療問題を一応のテーマとしておきますが、面接時に履修(希望)者それぞれがこういった方面に関心を持っているか等につき把握した上で、最終的には、年度初回の授業時に全員が顔を合わせたところで、全体テーマ/個別テーマ、半期ないし通年のゼミの進め方などにつき、相談の上、決定する予定です。但し、担当教員の専門性との関係で、医療問題ないしその周辺を扱うこととした方がよりスムーズなゼミ運営につながるでしょうし、例えば憲法や刑法は全くの専門外ですので、いずれにしても、民法そのもの、あるいは医事法でも民法の観点からアプローチすることを中心に勉強していくことになるものと思われます。</p>
教科書	授業時等に適宜指示します。
参考文献	授業時等に適宜指示します。
備考	<p>(01) 事前の志望理由等(レポート)提出について: 必ず、提出締切日である 2026.01.15.(木)17:00 までに廣瀬のアドレス uh-kun@kokugakuin.ac.jp 宛に着信するよう、送付すること(その際、01.16.(金)の14:00～の時間帯に面接を受けることが「授業やアルバイト等と重なっている」等の理由により不可である場合には、その旨一代わりの面接可能日時(○但 01.19.まで+月 3～5 限&amp;火 4～5 限&amp;01.14.終日&amp;01.17.終日&amp;01.18.終日を除く)があれば、その点をも含めて一明記すること)。折り返し、面接用の Zoom の招待状をお送りします&amp;レポートを提出しないと面接を受けられなくなるので、注意すること(第1次募集ではレポート未提出で不合格となった応募者が複数いましたので、念のため)。</p> <p>(02) 選考日時について: 事情により当該日時に面接を受けられない場合は、予め、その旨申し出ること(上記(01)参照)。なお、面接の終了時刻は応募人数により前後するため明記しない&amp;面接に要する時間は応募者1人につき15分程度を目安とします。</p> <p>(03) 履修者数について: 全員による議論を成立させるため、現2・3年生合わせて20名程度を上限としたい。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	福岡 英明
演習テーマ	簡単な事例問題を解きながら、基礎知識を確認し、思考力を高める
演習内容	<p>「フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤」という演習書を利用して、簡単な事例問題を解きながら基礎知識を確認していきます。</p> <p>毎回、1問解くことを目指しますが、実際には、1問解くのに3回くらいかかると思います。</p> <p>とくに各回の担当者は決めずに、教員と学生、あるいは学生同士の問答により演習を進めます。具体的には、参加人数にもよりますが、4～5人のグループに分かれて議論し、グループごとに発表してもらいます。</p> <p>基礎知識があやふやなところがあれば、その都度、教員が補足的な説明をします。</p> <p>どのような順序で考えていけば、結論にたどり着けるのかを教員・学生間でのディスカッションを通じて体得できればと思います。</p> <p>1・2年次に憲法を履修したけれども、なんだか心もとないと感じている学生でも、あるいは、なんで単位が取れたのか自分でも不思議に思っている学生でも気軽に参加できる演習をしたいと思います。</p>
教科書	加藤一彦・阪口正二郎・只野雅人編著「フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤」北樹出版
参考文献	<p>適時、必要なものをコピーして配布する。</p> <p>また、使用する教科書に問題ごとの参考文献が提示されているので、興味があれば読むとよい。</p>
備考	<p>K-SMAPYⅡで登録せずに、メールだけ送ってくる学生がありますが、必ず登録したうえで、メールを送ってください。</p> <p>夏休み中の合宿を行う予定はありません。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	森川 隆
演習テーマ	漫画を使用したの「会社法の基礎」等の復習又は予習／株式会社法事例研究
演習内容	<p>【内容】</p> <p>皆さんが株式会社をイメージするのは難しいかもしれませんが、株式会社は、経済を支える重要な存在であるだけでなく、皆さんの多くが就職する場ともなります。本演習では、そのような株式会社をめぐる法的な規制（会社法上の規制）について、具体的な事例を取り上げて検討していきます。また、それに先立ち、漫画を用いて、講義科目である「会社法の基礎」「株式会社法ⅠA・ⅠB」等の復習又は予習を行う予定です。</p> <p>【運営】</p> <p>司会者による司会進行の下で、報告者が報告を行い、それに基づいて全員で議論します。報告者には、レジュメを作成して報告を行っていただきます。受講生が多い場合は、複数人でチームを組んで司会・報告を担当していただく可能性もあります。</p> <p>そのほか（懇親会等）は、受講生のノリ次第とします。</p> <p>【成績評価】</p> <p>無断欠席がないことを前提として、司会・報告・発言の内容により成績を評価します。</p> <p>【講義科目】</p> <p>「会社法の基礎」を履修していない人は、本演習の履修と併行して同科目を履修してください。また、本演習の内容は、「株式会社法ⅠA・ⅠB・Ⅱ」「商取引法A」とも関係します。そこで、それらの科目も履修していただくことをお勧めします。</p>
教科書	〔原作〕周良貨＝〔漫画〕能田茂『監査役 野崎修平』（集英社）等のほか、担当教員が作成する会話し事例問題を取り上げます。そのほか、市販の問題集を取り上げることもあります。過年度は、高田晴仁＝久保田安彦編『人間ドラマから会社法入門』（日本評論社）を取り上げています。
参考文献	適宜指定します。
備考	レポートについては、ご自身の長所（短所）、これまで頑張ってきたこと、入学後に勉強してきたこと、将来の進路の希望、担当教員への要望などを自由に記述していただいて構いません。ここ数年は演習を担当していないことから、本演習は、現2年生（開講時は3年生）で構成する予定です。現2年生＋担当教員で和気あいあいできればと思います。履修にあたって担当教員に質問がある場合は、もちろん応じますので、オフィス・アワー等をご利用ください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	安田 恵美
演習テーマ	「犯罪をした人」への対応を考える
演習内容	<p>令和7年6月に懲役刑・禁錮刑が廃止され、「拘禁刑」が導入されました。これは犯罪をした人の「改善更生」に向けた作業や教育、支援を強化するための改正だとの説明があります。そもそも「改善」「更生」とはどのような状態を指す言葉なのでしょう。前期は、拘禁刑に関する文献を精読し、ディスカッションを行います。後期は、前期の内容を踏まえ、各々が設定したテーマについてレポート（1万字程度）の執筆作業を行います。「問い」の設定、論文の構成を考える作業、そして、グループ内での添削作業といった作業をゼミの時間内に行います。</p> <p>このほかに、他大学との合同討論会、フィールドワーク・刑事施設等の見学、実務家等への聞き取り調査等を行うこともあります。これらのイベントは夏休み等の授業外の時間に実施することがあります。</p>
教科書	武内謙治＝本庄武『刑事政策学』（日本評論社、2019）
参考文献	
備考	<p>応募の際には、演習で取みたいトピックに関するレポートを0politique0penal0@gmail.comに送信してください。その際、理論・法制度・実務等の現状とそこに存する問題点に必ず言及してください。また、メールの本文には、面談希望時間と面談の方法（zoomか対面か）についても記載してください。面談の詳細については、メールにてご連絡します。</p>

教員名	山下 裕樹
演習テーマ	身の回りの出来事を刑法的に捉え直してみよう
演習内容	<p><b>1. ゼミの目的・進め方</b></p> <p>例えば、万引きが窃盗罪に該当するとして、それはどの時点で成立するのでしょうか（鞆に商品を入れた時点？それとも店から出た時点？）。自動運転車が実用化されたとして、それが事故を起こした場合、誰が刑法上の責任を負うべきなのでしょうか（車の所有者？製造者？それとも車自身！？）。そうした私たちの身の回りで起こりうる事案を、もう一步踏み込んだ、刑法的な視点から眺めてみませんか？</p> <p>本ゼミでは、新聞やニュースの気になる事件あるいは日常的に起こりうる事例を素材に、グループワークあるいは個人報告をたたき台として、ゼミ生同士に自由に議論してもらい、それを通じて刑法的な物の見方を養うことを目的としています。</p> <p>また、そうした活動を通じて、問題発見能力や多角的な考察能力を養い、プレゼンテーション能力を向上させることで、社会に出ても役立つ能力を養うことも目的としています。</p> <p><b>2. その他</b></p> <p>ゼミ生の希望によっては、講演会やゼミ合宿も実施する予定です。場合によっては、他大学との合同ゼミを実施します。学内の交流だけでなく、学外にも交流を広げてみませんか？</p> <p><b>3. 成績評価</b></p> <p>毎回の出席を前提として、報告準備、報告、ゼミ内ディスカッションの内容等を総合的に判断して評価します。<b>なお、無断欠席をした者については単位認定しません。</b></p>
教科書	授業中に適宜指示します。
参考文献	<p>佐伯仁志＝橋爪隆編『刑法判例百選Ⅰ〔第8版〕』（有斐閣、2020年）</p> <p>佐伯仁志＝橋爪隆編『刑法判例百選Ⅱ〔第8版〕』（有斐閣、2020年）</p> <p>※その他、文献・判例の調査・分析方法については演習内で説明します。</p>
備考	本ゼミでは、ゼミ生が中心となって授業運営をしています。主体的・能動的にゼミ運営に携われる学生は大歓迎です！みんなでゼミを作り上げてみませんか？

教員名	山本 健太郎
演習テーマ	Z世代と政治・社会
演習内容	<p>いわゆる「Z世代」の中心に位置する皆さんから見て、政治や社会の課題はどのように映っているのでしょうか。担当教員が専攻する日本政治においては、ソーシャル・メディアの存在感が大きくなるにしたがって、世代による「政治の見え方」が変わっているのではないかと考えられます。他方、これからますますZ世代が社会の中心に躍り出るにつれて、社会の側がZ世代をどうとらえ、どう分析するかということも問題になってきています。</p> <p>このゼミでは、Z世代にとっての政治・社会のリアリティをゼミ生の皆さんから提示してもらおうとともに、少し上の世代から見てZ世代がどのように分析されているかについても検討していきます。つまり、「自分たちはどう考えているか」に加えて、「自分たちは（他者から）どう見えているか」を知ること、みなさんの自己分析につなげてもらえればと考えています。</p> <p>具体的なテーマとして想定しているのは下記のような内容です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Z世代とソーシャルメディアと選挙・政治</li> <li>・消費者・勤労者としてのZ世代</li> <li>・少子化の行方とZ世代のリアル</li> </ul> <p>本ゼミでは、最終的に個人で関心を持ったテーマについてのプレゼンテーションをしてもらう予定です。出席は基本的に義務ですので、やむを得ず欠席する場合は事前連絡が必要になります。無断欠席が続く場合は、不可／除籍とすることがあります。</p> <p>なお志望理由レポートには、①メールアドレスと学籍番号・学年・氏名、②「最も関心を持っている社会問題」を含めておいてください。</p>
教科書	<p>初回のゼミで紹介しますが、下記のものを想定しています。</p> <p>舟津昌平（2024）『Z世代化する社会：お客様になっていく若者たち』東洋経済新報社。</p> <p>メアリー・ブリントン（2022）『縛られる日本人：人口減少をもたらす「規範」を打ち破れるか』中公新書。</p>
参考文献	ゼミで適宜紹介します。
備考	質問・問い合わせ先：kenyamamoto@kokugakuin.ac.jp

教員名	荻野 徹
演習テーマ	判例で学ぶ行政法
演習内容	<p>本ゼミでは、行政法の判例をじっくりと読み解くことにより、行政法の考え方について理解を深めることを目指します。基本的には、行政法を一通り学んだ人にとって有益な内容を予定していますが、行政の活動について関心があり、行政法を学ぶ意欲があれば、未修者でも、また4年次からでも、差し支えありません。</p> <p>ゼミの進め方は、前期には、二、三の基本判例を取り上げ、参加者全員で判例の読み方・関連文献の調べ方・他の判例との比較・先例拘束性の法理の意義・行政法の一般法理論等について学び、後期には、参加者が各自報告を行い、その報告を基に全員で討議・検討を行う、という形式を予定しています。授業の一環として夏休み（8月下旬―9月上旬）に1泊2日のゼミ合宿を予定しています。</p> <p>【面接について補足】</p> <p>・面接日時（1月13日（火）13時00分～17時00分の間）に参加できない者は、メールにて荻野（ogino@biglobe.jp）まで連絡してください。オンライン面接又は別日の面接を実施します。</p> <p>【レポートについて補足】</p> <p>・法的にどのような論点があるか（行政法以外の法的論点でも構いません）、それをどう考えるべきか、一応の感想でかまいませんが、法学部生らしいコメントをしてください。（1000字）。また、自己紹介（興味や関心、将来の夢、志望動機など）と連絡先（連絡のとれるメールアドレス）も付記してください。（200字）</p>
教科書	行政法判例百選Ⅰ、Ⅱ
参考文献	
備考	

教員名	濱村 仁
演習テーマ	国際秩序の危機を考える
演習内容	<p>今世紀初頭には、西側の普遍的価値観が広がり、欧米主導の「リベラルな国際秩序」の下で自由や平和、繁栄が実現するという考えが大きな影響力を持っていました。しかし現在、こうした価値観と秩序は深刻な攻撃にさらされ、瀕死状態に陥っています。これを踏まえて、本演習では、国際政治学の古典であるE・H・カー『危機の二十年』を中心に国際秩序に関する文献を読みます。同書は戦間期に書かれた古い本ですが、19世紀版「リベラルな国際秩序」の崩壊を前に人々が茫然自失としていた時代に、その秩序の矛盾を鋭く分析し、国際政治学を独立した学問として確立した名著です。同書を通じて国際問題を政治学的に考える視点を身につけることは、皆さんが関心を持つ様々なテーマを深く理解するうえでも役立つでしょう。</p> <p>前期は文献講読を行い、後期は各自が選んだテーマに基づいて論文を執筆します。（人数などを考慮して、後期の前半にも文献講読を行う可能性があります。）文献講読では、毎回報告者がレジュメを作成して報告を行い、他の参加者は事前提出した論点を提起して、全員で議論をします。</p> <p>本演習は2026年度から新しく始まる授業です。授業の進め方や懇親企画など、皆さんの意見を取り入れながら柔軟に対応していきたいと思いますので、積極的な提案を歓迎します。</p>
教科書	E・H・カー『危機の二十年』原彬久訳（岩波文庫、2011年）（井上茂の旧訳は避けること） 他の文献は開講時に指定します。
参考文献	佐藤史郎・三牧聖子・清水耕介編『E・H・カーを読む』（ナカニシヤ出版、2022年） 他の文献は開講時に指定します。
備考	<p>レポートには、氏名、学籍番号、メールアドレスを明記してください。</p> <p>レポートの提出時には、メール件名に「濱村ゼミ志望」と書いてください。</p> <p>書かれている面接日時では都合がつかない場合は、メールでレポートを提出する際にその旨をあらかじめ伝えてください。</p>

教員名	山口 順平（旧宮下大志ゼミ）
演習テーマ	「現代日本の政治と民主主義」
演習内容	<p>この演習は、現代の日本政治と民主主義をテーマとして、現代の政治社会を取り巻く諸課題について、具体的な事例を取り挙げながら検討していきます。特に、近年の日本政治における、不安定な政党政治、新興政党の台頭、人口減少と少子高齢化、消滅自治体、コミュニティ再建、排外主義、政治的主張とSNS戦略といった幅広い課題を取り扱う予定です。</p> <p>こうした日本政治の動向について、演習ではどのように評価すべきか、今後はどうなることが望ましいのかなどを、受講生の皆さんと一緒に考え、議論していきたいと思えます。その際には、欧米諸国との比較や理論的考察も併せて行っていくことを考えています。</p> <p>年間の計画として、前期は文献の輪読と演習論文の構想発表、後期は文献の輪読と演習論文作成状況の報告を行う予定です。授業最終週には、演習論文を完成させて提出してもらいます。</p> <p>演習の目標は、文献の輪読や演習論文の作成を通して、政治学における重要な概念や議論、政治学的・社会学的な分析方法を学修し、自らで問題を発見し、論理的に分析し、解決する能力を身につけることです。</p> <p>【選考】授業時の議論に積極的に参加される方を優先します。</p>
教科書	<p>善教将大（2025）『民度』中公新書</p> <p>田中輝美（2025）『関係人口の時代』中公新書</p> <p>中井遼（2025）『ナショナリズムとは何か』中公新書</p> <p>秦正樹（2022）『陰謀論』中公新書</p>
参考文献	適宜紹介します。
備考	<p>単位取得の条件は、輪読での報告と演習論文の完成が必須となります。その他に、全回に出席することが原則となります。無断欠席された場合は、単位認定とはなりませんのでご注意ください。</p> <p>面接の日時に不都合がある場合や、演習の内容等に関する質問・相談は、（yamaguchi.junpei.kokugakuin@gmail.com）にメールを送ってください。</p>